

三重ぐるり

MIEGURURI

「三重ぐるり」では、毎月テーマを設け、そのテーマに沿った三重県内の市民活動団体を紹介しています。今月のテーマは【災害・防災】。災害に備えて防災活動に取り組んでいる団体を県内の市民活動センターから紹介していただきました。

桑名防災支援ネット

情報提供：みえきた市民活動センター

〒511-0943 桑名市森忠 ☒ kawase-h@intsurf.ne.jp



メンバーが集まって勉強をしています。

災害にあわれた人たちへの支援活動と、防災の取り組みに対しての支援活動とを中心に、それぞれのメンバーが自分たちの思いで自分たちができることをやろうという姿勢で活動しています。東日本大震災の時は、物資の詰め込み作業や写真の洗浄、また、食物に放射線の不安があるという人に、こちらから野菜を送ったりと、各自がそれぞれに支援に取り組みました。

メンバーは皆、いろいろな経験をつんで来ています。情報を交換し合い、いろいろな角度からの視点で、実際に支援できるためのさらなるスキルを、身につけていこうと考えています。

最近では、伊勢湾台風のことや、災害時のアレルギー児への対応なども、いろいろな人や団体と連携しながら、学び、広めています。

メンバーの高齢化もありますが、若い人も活躍しています。仲間を募集中です。みなさん、どうぞ来てくださいね。

さまざまな勉強や防災の集いなどの機会に、どうぞ声をかけてください。

それぞれのメンバーが自分たちの思いで自分たちができることをやろう。

NPO 法人災害ボランティアネットワーク鈴鹿

情報提供：市民ネットワークすずかのぶどう

〒510-0254 鈴鹿市寺家 3-33-33 ☎ 059-386-2400 ☒ engawa@mecha.ne.jp



南海トラフ地震への備えは何といっても将来、地域や行政の防災対策の主力となる子どもたちに託したい！という思いから「子ども防災サミット」を毎年開催しています。お互いの年齢や経験値の差をサポートしながら学ぶ中で、災害への備えを考え、防災意識を高め、子どもたち自身が自分を守る災害対応力を身に付けることを目的としています。

8月の第1土、日を開催日とし、無線を使つての災害時の通信方法を体験する講座、ロープ渡りや消火訓練などを体験。暗闇体験。地震のメカニズム、活断層とは？そして耐震とは？等を防災講座で幅広く学びます。そして築きあう防災に強い知識と行動を共有したいと思っています。

もちろん東北の被災地への支援は継続的に行っており、35回目になります。各地の防災啓発活動を引き受け、講座の開催を行う活動もしています。

まずはお電話ください！

1人では何もできないが皆で共に活動し、助け合おう。そして次のステップへ登ろう。

NPO 家具固定を進める会

情報提供：津市市民活動センター

☎ 059-234-7603 (吉田)



ダミー人形を使った耐震実験の様子

地震などによる家具の転倒を防止するための施工活動を年間2、30件行っています。耐震診断士の資格を持つ「NPO 家具固定を進める会」会員が下見を行い、大工、設備、塗装、電気、左官、内装などの職人である会員が実際に家具の固定を行います。津市と連携しながら家具固定を推進しており、家具の固定・取り付けに関する申込み窓口が津市危機管理室にあります。家具の固定・取り付けは有料ですが、市の家具固定に対する補助金制度を利用することができます。

また、家具固定啓発のための実演講演会を行っています。自治会からの要請で200名規模の実演講演会を、個人宅で20名規模の講演会を開催しました。地震が起きた際には、倒れた家具や割れたガラスで被害を受けることが多く、家具を固定するだけでかなりの減災につながります。簡単な固定方法のアドバイスもできますので、気軽にご連絡・ご相談ください。

上記連絡先までご連絡ください。

津市の家具固定率は全国的に見て低い数値です。正しい方法で家具を固定していただくための方法をお伝えできますので、ぜひご利用ください。

防災ボランティアネットワーク松阪

情報提供：松阪市市民活動センター

☎ 0598-36-1870 ✉ oh0817@mctv.ne.jp



「災害ボランティアセンター・サポーター養成講座」の様子

松阪市を中心に総合的な防災活動を行っています。設立 19 年を迎え、防災の分野では市内でもっとも実績のあるボランティア団体です。

活動のメインは、防災意識の啓発を目的としたワークショップ形式の出前講座や、国内で災害が起こった時の救援活動・ボランティアコーディネートなど。災害図上訓練の一手法「DIG」を活用した出前講座は、地域組織や自治会、行政、企業に対して 200 回以上行ってきました。

いま注力する課題は、災害時における要援護者のサポートです。災害発生時、お年寄りや障がい者など自力で逃げられない方を助けるためには、10～20 軒の顔が見える“細”単位の小さなコミュニティが普段から情報を共有し合い、互助（お互いに助け合う）の意識を持つことが重要です。そこで同団体が出向いて勉強会を行うことで、住民同士の温度差をなくし、住民自身が沿岸部・山間部など地理的環境に応じた避難行動を主体的に考えるサポートを進めています。市内の住民協議会をはじめ、依頼を受け明和・多気・大台などの近郊へ出向くことも増えています。

今年の養成講座（全 5 回）の詳細は松阪市社会福祉協議会へお問い合わせください。（市外の方も受講可）そのほか、防災のことなら何でもご相談を承ります。

非常時に災害ボランティアセンターを運営する人材づくりを目的に、松阪市社会福祉協議会などと連携して「災害ボランティアセンター・サポーター養成講座」を開催しています。平時より地域防災に関わる人材の育成にも繋がっています。

Mie Protect Oneself (三重 自分の身は自分で守る)

情報提供：いせ市民活動センター

伊勢市 ☎ 0596-36-7638



あなたも私も災害弱者です。

赤ちゃんとお母さん、妊婦さん、子どもたち、お年寄り、さまざまな病気や障がいのある人々・・・こういった人々を災害弱者と言います。地震や津波が起こったときに、どうしても不利な立場になりやすい人たちです。

また、これらの人々のご家族や関係者なども一緒に避難しますので、広い意味での災害弱者です。伊勢市では、65 歳以上の人口が 25% を超えたので、住民の半分くらいは何らかの災害弱者と考えてもよいでしょう。

災害が起こったときに、これらの人々の命を守るには、「とにかく逃げる」では済みません。東日本大震災で犠牲になったのは、「とにかく逃げる」ことのできない人たちだったと考えられるからです。

私たちは、地域のグループや小学校を対象に、そのような視点での活動を推進しています。「災害弱者の視点からの地震・津波対策」の講演活動や、あなたの地域の地震・津波対策の教育、研究、そして実践のために活動をしています。

まずはお電話ください！

どの地域でも大災害が危惧される中、地域や個人の現実を踏まえた、より人間の視点からの対策が必要です。講演依頼受付中！

紀北町災害ボランティアコーディネーター養成講座(紀北町社会福祉協議会)

情報提供：東紀州コミュニティデザイン

〒 519-3204 北牟婁郡紀北町紀伊長島区東長島 209-9 ☎ 0597-47-0725 ✉ kihoku-knsya@zb.ztv.ne.jp



養成講座でのグループワークの様子

平成 24 年度より開催している災害ボランティアコーディネーター養成講座では、災害発生時の役割分担や避難者支援、防災に関する心構えなどを、地域住民同士で考え、話し合う機会を提供しています。紀北町において約 10 年前に経験した大水害の被害、そして東日本大震災被災地でのボランティア活動の経験を通して、地域防災の現状に危機感を抱いたことが開催のきっかけとなっています。「日常生活での取り組みこそが、災害時に生きる力となる」という考えのもと、同講座が期待するのは地域住民の積極的な取り組みにつながることで、そのためにも、福祉関係者に偏らない多様な職業や年齢層からの受講者を増やすことや、実践を想定した次のステップの講座を取り入れていくことなどが今後必要だと考えています。そして、講座修了者が集まって地域の防災訓練に参画するといった、常時からセクター同士が連携できるような取り組みを展開することで、災害発生時にも生きる体制の実現を目指していきます。

養成講座の受講（受講条件なし）、関連企画への参加

災害に限らず、個人では解決できない課題が地域にたくさんあります。そんな地域の課題に受講者が積極的に取り組みはじめ、住民同士の支え合いの力が強まることを期待して、今後も充実した講座を実施していきます。